

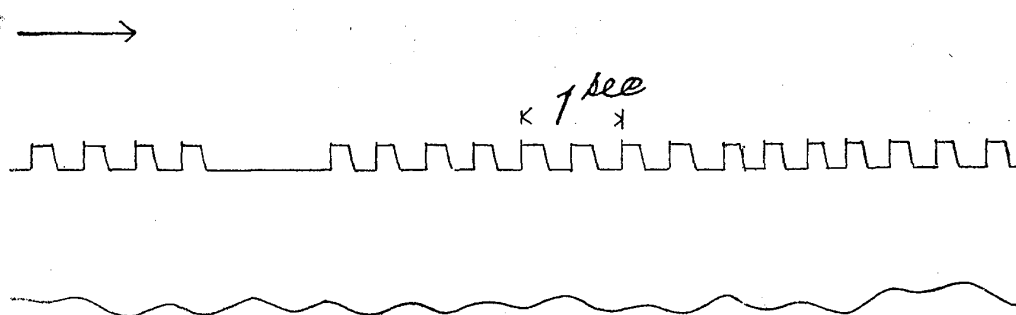
最大東西動ハ〇・八六「ミリメートル」ニシテ、千九百十五年二月八日ニ數人ヲシテ塔ヲ動搖セシメテ生ジタル最大動ハ〇・五「ミリメートル」ナリキ、又千九百十五年十月四日ニ四人ヲシテ塔ノ自己振動期ト時ノ調子ヲ合セテ塔ヲ動搖セシメタル結果トシテ、最大動〇・七「ミリメートル」ヲ呈セルガ、此ノ日風ノ爲ニ生ジタル最大動ハ〇・一「ミリメートル」ナリキ。千九百十七年十二月廿八日ニ鐘ヲ鳴ラセル爲ニ生ゼル塔ノ微動ハ上下方向ニ〇・〇〇〇四乃至〇・〇〇二七「ミリメートル」、東西方向ニ約〇・〇〇〇四「ミリメートル」ナリキ。完成セル「セーザー」塔ノ重心點ハ基礎下底面上約百〇二呎ニ當ル、基礎ノ厚サハ十八呎ナルヲ以テ、重心點ハ第三階床ヨリ約四尺ノ高サニアルモノトス。

第五章 東京帝國大學醫學部ノ

百呎鐵筋混凝土煙突

一 東京帝國大學醫學部所屬百呎鐵筋混凝土煙突ハ大正四年ニ完成セルモノニシテ、五呎六吋ノ等一内徑ヲ有シ、外徑ハ根本ニテ七呎九吋、頂上ニテ七呎一時ナル圓筒ナリ、壁厚ハ最下十五呎間ハ九吋ニシテ、其レヨリ七吋トナリ、頂上ニテ五吋ニ減少ス。基礎ハ直徑二十三呎、厚サ四呎〇・五吋ナリ

鐵筋混凝土煙筒ノ内面ニハ厚サ四・五吋ノ煉瓦層ヲ施セリ。



第十三圖 東京帝國大學醫學部鐵筋混凝土構造煙突ノ振動記象
高サ百呎 風ノ爲ニ生ゼル振動(實動ノ二十倍)

助川其他ノ場合ニ使用セル微動記録機ヲ煙突頂上ノ周圍ニ設ケラレタル圓形鐵足場ニ据ヘ付ケ驗測シタリ、大正五年三月八日午後ハ地面ニ於ケル風速一秒ニ付キ約五若クハ六米ナリシガ、煙突頂部ノ振動ハ微少ニシテ最大實動〇・二「ミリメートル」ニ止マレリ、振動期ハ〇・八五秒ナリキ。

第六章

助川驛附近百

呎鐵筋混凝土

煙突

一 助川驛附近百呎煙突
助川驛附近久原鑛業會社ノ
圓形ノ鐵筋「コンクリー